

国語 第5学年 しかけと表現の工夫を見つけて、物語のおもしろさを伝える文章を書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う相手です。この後に、第5学年の物語「注文の多い料理店」の学習指導案が続きます。直す前に、次の五つを一つずつ私に質問し、全部の答えがそろうまで学習指導案を書き換えないでください。一つ目、学級の人数と、支援が必要な子の様子。二つ目、既習の内容（前の物語単元で学んだこと、音読の状態）。三つ目、この学級でつまづきそうな所。四つ目、この単元に使える時数と本時の位置。五つ目、使える端末や提示機器。答えがそろったら、次の決まりで直してください。学習指導要領（平成29年告示）の文言から外れない。教科書の本文・台詞・問題文・ページ番号は書かず、引用が必要な所は「教科書の該当箇所を開く」と書く。評価標準の文末は「～している」「～しようとしている」のままにする。数字は私が答えた物と出典のある物だけを使う。直し終えたら、変えた所の一覧を作り、どの答えを根拠に変えたかを一つずつ添える。見出しと項目名は元のまま。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「しかけと表現の工夫を見つけて、物語のおもしろさを伝える文章を書こう」 教材名「注文の多い料理店（宮沢賢治）」

2 単元の目標

(1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク／(2) 登場人物の相互関係や心情などを描写を基に捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)イ・エ／(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価標準

〔知識・技能〕①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)

〔知識・技能〕②文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで表現の効果を考え、学習の見通しをもって、物語のおもしろさを伝える文章を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、二人の紳士が山の中の不思議な店に入り、扉の注文を自分の都合のよいほうに受け取って奥へ進み、結末で自分たちが料理される側だったと気付く物語である。現実の山から不思議な店に入り、また戻るという場面の移り変わりがある。二通りに受け取れる題名や注文の言葉、同じ形で繰り返される扉、色や音の描き方といった表現の工夫が多く、学習指導要領第5学年及び第6学年の(1)ク「比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」と、C(1)エの表現の効果を考える学習を、同じ教材で扱える。扉ごとに、二人の受け取り方と、読む人が気付くことがずれていくので、登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉える学習（C(1)イ）にも向いている。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、単元の軸は「読むこと」とし、物語のおもしろさを伝える文章を書く活動は、読んで身に付けた力を使う場(C(2)イ)にする。書く技能の指導を主にしない。次に、表現の工夫の学習を別の時間にせず、第2次の読む学習に組み込む(第3の1(3))。そして、「おもしろい」「こわい」で止まった発言は「どの言葉がそう感じさせたか」と叙述に戻す。引用は教科書を開いて該当箇所を指し、黒板には短い語だけ書く。音読が苦手な子にはペア読みや範読を入れ、目で追えるように表を使う(第3の1(9))。端末がある学級では三列の表を共有シートにして、友達の線の引き方を見比べられるようにする(第3の2(2))。

5 指導と評価の計画(全6時間)

第1次 第1時: ○全文を音読で読み通し、登場人物(二人の紳士、二匹の犬、山猫)を確かめる。○どこで現実の山から不思議な店に入り、どこで戻ったかを、場所と出来事の変化で区切って表にする。○「この物語のおもしろさはどこにあるか」を仮の一文で書き、単元の終わりに書く文章の相手(下の学年や家の人)を決める。 評価: 知②(音読の様子) 態①(見通しの記述・ノート)

第2次 第2時: ○扉の順に、注文の言葉(先生が本文から入れる欄)・二人の受け取り方・読む人が気付くこと、の三列の表を作る。 評価: 思①(表の記述・話し合いの発言)

第2次 第3時(本時): ○繰り返される扉の場面を比べ、二通りに受け取れる言葉や同じ形で繰り返される言葉、色・音・においの描き方が、読む人の気持ちをどう動かすかをペアで話し合う。 評価: 知①(線を引いたノート) 思②(話し合いの発言)

第2次 第4時: ○最後の場面で紳士の顔が元に戻らないことの意味を、冒頭の二人の様子と結び付けて考える。○題名の二つの意味に気付く。 評価: 思②(表の記述・話し合いの発言)

第3次 第5時: ○結末を書かずに、しかけ一つと表現の工夫一つを取り上げ、それがどう効くかを理由を付けて書く。 評価: 思③(書いた文章)

第3次 第6時: ○グループで読み合い、相手の文章で自分が気付かなかった工夫を一つ書き足す。○単元の振り返りで、最初に書いた仮の一文と比べる。 評価: 思③(書き足し) 態①(振り返りの記述・読み合いの様子)

6 本時の指導(3/6)

(1) 本時の目標

繰り返される扉の場面を比べ、言葉の使い方の工夫が読む人にどんな効果を生んでいるかを、描写を基に説明できる。((1)ク、C(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動: 1 前時に作った扉ごとの表で、二人が扉を通るたびに何を信じ、読む人は何に気付いたかを確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「注文は一つずつ増えて、おかしいとも言われているのに、二人はなぜ引き返さなかったのだろう。言葉のどこがそうさせたのか」

【めあて】扉の注文の言葉の工夫が、読む人にどんな効果を生んでいるかを考えよう。

3 自分の予想をノートに一文で書く。

指導上の留意点: ・前時に作った扉ごとの表を黒板に貼り、一つずつ指で押さえながら確かめる。

・予想を一文で書かせてから活動に入る。

【展開】

学習活動: 4 一人で、扉の注文の言葉に、二通りに受け取れる言葉と、同じ形で繰り返されている言葉を、色を分けて線を引く。

5 ペアで、線を引いた所を、その言葉がなかった時と置き換えて比べる。

○「その言葉がなかったら、二人は、読む人はどう感じるか」

6 全体で、出てきた工夫を「繰り返し」「二通りの言葉」「色・音」の三つに分け、それぞれが読む人にどう働くかを、読む人の側の言葉で言い直す。

予想される児童の反応：・同じ形の注文が続くから、だんだん疑わなくなる。

・読む人は途中で変だと気付くのに、二人は気付かない。そのずれがこわくておもしろい。

・色や音の描き方が、奥に進むほど変わっていく。

指導上の留意点：・注文の言葉は、教科書の該当箇所を開いて指させる。黒板には短い語だけ書く。

・線が引けない子には「この注文は誰が誰に向けた言葉か」と問い、一つ前の扉と比べさせる。

・早く終わった子には題名の二つの意味を問い、どちらの意味が最後に残るかを考えさせる。

・「おもしろい」「こわい」で止まった発言は「どの言葉がそう感じさせたか」と叙述に戻す。

・音読が苦手な子にはペア読みや範読を入れ、目で追えるように表を使う。

・端末がある学級では三列の表を共有シートにして、友達の線の引き方を見比べられるようにする。

評価：知① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(線を引いたノート)

思② 表現の効果を考えている。(話し合いの発言)

【まとめ】

学習活動：7 振り返りを二文で書く。

(型)「今日見つけた工夫を一つ選び、それがあつて読む人はこう感じる」

8 数人が読み上げる。

指導上の留意点：・次時は最後の場面と冒頭を結び付けて、物語の全体をとらえることを伝える。

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端：題名・作者・めあて(表現の工夫→読む人への効果)。

その左：扉の順番と注文の言葉(先生が本文から短く入れる)。

中央：二人の受け取り方(心情が分かる言葉)。

その左：読む人が気付くこと。

左側：見つけた工夫を三つの箱(繰り返し／二通りの言葉／色・音)に分け、矢印の先に効果を書く。

左端：振り返りの型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

